

[課程一 2]

審査の結果の要旨

氏名 小森 正智

本研究は医療機関における薬剤廃棄の現状を分析し、薬剤の廃棄率への影響要因の解明を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 注射の実施時刻は特定の時間帯に集中しており、6時前後が最も実施本数が多いが、集中する時間帯に備えて現場では事前に混注して対応していることが示された。看護師が少ない時間帯・曜日は他の時間帯・曜日に比べて混注時刻と投与時刻の間隔が長いことが示された。
2. 注射指示があった全ての薬剤について、最初から最後まで予定通りに行われたオーダーが87.3%、混注した後に患者に投与するまでの間に指示変更があり廃棄されたものが1.8%、混注する前に指示変更があり返品され再利用可能な状態になったものが10.9%であることが示された。
3. 返品額の払出薬剤合計額に占める割合は10%前後、返品額は1ヶ月あたり1000万円前後で推移していることが示された。薬剤が払い出された後に廃棄される理由として、混注後の指示変更による廃棄、期限切れ、破損等があるが、薬剤の払い出し後の廃棄額のうち混注後廃棄額の割合が67%を占めていることが示された。混注後廃棄額上位の薬剤は抗悪性腫瘍剤等の重症患者に投与される薬剤や血漿分画製剤等の貴重な薬剤が多く、購入単価が高額な薬剤が多いことが示された。
4. 混注後廃棄率の影響要因とその影響度を調べるため、混注後廃棄率を説明するための重回帰分析を行った結果、混注後廃棄率は指示変更率および混注時刻と投与時刻の間隔に影響を受けること、指示変更率よりも混注時刻と投与時刻の間隔の方が影響が大きいことが示された。

以上、本論文は医療機関における注射業務の現状を分析し、BCMA (Bar Code Medication Administration)システムの導入が注射管理に資する効果を検討した。また、薬剤廃棄の現状を分析し、薬剤の廃棄率への影響要因を解明した。本研究は、医療機関における全ての薬剤の廃棄状況や薬剤廃棄の影響要因の解明に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。